

★トルストイの民話★

# 七つの星<sup>ほし</sup>

文 ● 岩崎京子 絵 ● 小野孝一



女子の口会

★トルストイの民話★

# ほし 七つの星

文 ● 岩崎京子 絵 ● 小野孝一



女子の会

むかし むかし、  
ちっとも あめが ふらなかつた  
ことが ありました。  
おどきな かわも ちいさな かわも  
いども いずみも からからに  
ひあがつて、 しまいました。  
木も くさも かれるし、  
ひとも けものも  
のどが かわいて しにそうでした。



ある ぼんの ことです。  
ひとりの おんなの 子が  
みずを さがしに、ひしやくを  
もって かけました。  
びょうきの おかあさんに のませて  
あげたいと おもったのです。



みずの ありそうな やまの かげとか  
しりの なかを さがしたのに、  
どこにも ありません。  
おんなの 子は、つかれて、  
うとうと ねむって しまいました。



ふと めを さまして  
ひしゃくをみると、どうでしょう。  
ひしゃくには きれいな みずが  
いっぱい はいって いました。

「まあ おみず！」

おんなの 子は おもわず のもうと して、  
はっと しました。

「あっ これは おかあさんのだったわ。」

おんなの 子は かけました。

こぼさないようにと、ひしゃくばかり  
きになって いたので、

わて いた こいぬに

つまずいて しまいました。

「あ、たいへん。だいじな おみずが……」



でも ふしぎ ふしぎ、  
ひしゃくの みずは こぼれず、  
たまたま ゆれて いるだけでした。



こいぬは その みずを みると、

「くーん くーん」

と なきました。

「わかったわ。のどが かわいて いるのね、

でも、これ おかあさんの おみずなの、

いいわ、すこしだけよ。」

おんなの 子は、そのひらに

みずを こぼして こいぬに

なめさせてやりました。



すまや とうでしやう。  
木の ひしやくは、  
きのうの ひかる きんに  
かきつて じまじた。

